



次代を見据えた長崎総合科学大学の取り組みから目が離せない。2027年度には「先端工学部(仮称・設置構想中)」を新設、翌28年度には新学部棟・ホール棟が完成予定。さらに協議会発足や協定締結など、民間、自治体、教育の場との結び付きも強めている。黒川不二雄理事長・学長に狙いや思いを描くビジョンなどについて聞いた。

(制作)長崎新聞社クロスメディア編集部

# ひとつ先の風景へ

黒川不二雄 理事長・学長



くろかわ ふじお 山口県出身。工学博士。福岡工業大卒業。長崎工学部教授、同大大学院研究科副研究科長、長崎総合科学大大学院新技術創成研究所学術教授などを歴任。2023年4月から学長、2025年7月から学校法人長崎総合科学大学の理事長。IEEE(米国電気電子学会)のLife Fellow(終身名誉会員)。

## 「若者根付く学びの場に大学のあり方を再構築」

県内では高校卒業後、約4700人が大学に進んでいるが、そのうち約1800人しか県内に残っていない。若者の県外流出は大きな問題だが、その前に「大学とは何なのか」。

これまでの「出演者」は、教員と学生の二通りであり、地域や生活を支える企業や商店のことをはじめ、学生に「長崎に住んでいる」という実感や考え方が行き届いていなかった。

その結果、長崎のことをよく知らないまま就職し、地域社会の人口減少につながっているのではないかと考えた。

学生、教員、企業の三者をはじめ、地域や住民、自治体と一緒に、長崎にある大学で学んでいると感じながら、楽しんで研究や教育に臨み、知識を得られる「場」が必要だ。

新学部開設に合わせて作る新キャンパスには、教育施設や研究・試作製品開発拠点、さらにはスポーツ・文化施設を備え、いつでも皆が集えるようにしたい。長崎の強みである海や太陽、温泉などの豊富な自然エネルギーを生かし、環境や脱炭素を意味するグリーン分野と、デジタルの力を融合させてうまく活用できる高度な技術者を育成したい。

長崎総合科学大学を中心にグリーンエネルギーを活用した教育研究と実証研究施設を設置し、東長崎地区のグリーンコミュニティタウン化と緊急災害時のグリーン避難場所となる「東長崎サステナブル・スマートタウン」の構築を目指す。同時にデジタル・AI教育研究の拠点化を進める。



## 「縦」と「横」の連携で世界に

### 「ひとつ先の風景」を実現するためのイメージ

#### ●産業分野教育協議会と共に進める改革

優れた教育環境や施設環境の中、冠講座や共同研究講座をはじめ、多くの企業と共に進める教育研究を活用し、人材育成を図る。

- 教育
  - 冠講座(1~3年生の各学年で年間15社が90分ずつ講義)
  - インターンシップ
  - 人材育成プログラム(半導体人材育成プログラムなど)
  - 企業と共に作るカリキュラム
  - GX/DX課題解決型プログラム
  - 大学院無料化プログラム

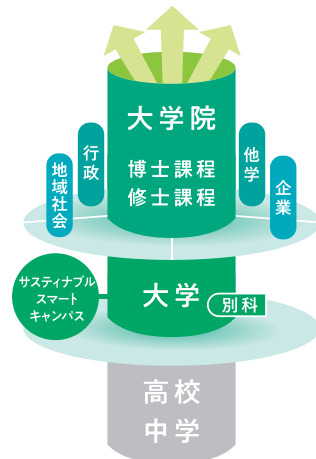
#### 長崎総科大独自の方式を推進

各学科の専門分野に加え、GX・DXの基礎から専門分野まで並行して学び、実社会で役立つ「即戦力」になるだけでなく、地球規模の社会課題を解決する能力を育む。さらに大学院で解析力や分析力を身に付けられるよう、環境整備(新キャンパス、実証実験設備、経済的支援、出口の確保など)を進めている。

- 研究
  - 多数の共同研究
  - プロジェクト研究
  - 共同研究講座

#### 長崎総科大独自の方式を推進

優れた研究者である教授の下、「産官学」共同で学生を巻き込んだ研究を通じ、教育を行うことで人材育成。



#### 社会の課題見える新しい理工系教育

近年、データセンターのエネルギー不足が懸念されている。特に人工知能(AI)は四六時中、学習を繰り返すため電力供給が重要になる。再生可能エネルギーやバッテリーの有効活用が想定されるが、いかに効率化できるか。この課題の解決には、グリーン(脱炭素)技術とデジタル技術が必要になる。環境と技術が交差するこのテーマは、学生にとっても現実的で理解しやすい課題であり、社会もその解決策を欲している。その上で、AIを使った設計や開発を担う人材も育成したい。AIはさまざまなプログラムを作ることができる一方、不具合があったとき、原因を突き止められる技術者が不可欠となる。AIが社会に深く浸透するほど、高度なスキルを持つ人材の需要は増すだろう。

従来の工学部では、機械や電気といった基礎分野が中心だ。新学部では「機械」や「電気」に、環境系や生物系の情報を含む「環境デザイン」、「理学」、「造船」、さらに「情報」を加え複合的に教育を行う。これは、現代の複雑な課題に対応するために欠かせないアプローチだ。課題を発見し、科学的根拠に基づいて解決へ導く力を備えたリーダーを育成したい。

#### 将来の道が開ける新キャンパス構想

これらを実現していくためには企業との結びつきが欠かせない。ITや半導体など幅広い分野の企業31社と、グリーン・デジタル産業分野教育協議会を発足した。

企業のニーズに応じたカリキュラムの策定や実践的な教育プログラム開発を進めている。10月からは同協議会の参画企業による冠講座を始める。ITや半導体など各企業の専門分野に特化した内容で、企業との連携強化と学生の専門性を高めることが狙いだ。

7月には、普通科高校や工業系6高校と連携協定を締結し、従来にない強力な高大連携体制を作っている。高校生が本学で講義を先取り受講できるようにするほか、夏休み期間中の集中講義や大学教員による出前授業、高校教員の研修などを想定している。

このように高校から大学、大学院へつながる年代的な「縦」のつながりと、企業や地域社会、自治体による「横」の連携が確実に形になっている。これを世界に広げていく。そういう場としての新キャンパスを計画している。長崎総合科学大学に来れば、自分の将来、「ひとつ先の風景」への道が開けるとすべての人に感じてほしい。

## 県内外15社が開講 10月から冠講座 始動

昨年12月に発足したグリーン・デジタル産業分野教育協議会に参画する企業のうち、県内外15社が10月から冠講座を開講する。ITや半導体など、各企業の専門分野に特化した講座となる。企業との連携を強め、学生の専門性を高める狙いがある。

開講する企業は、ソニーセミコンダクタマニュファクチャリングや商船三井、日立製作所など。各企業の社員らが講師を務める。期間は10月2日から来年1月29日まで。

冠講座一覧		第8回	不動技研工業冠講座
第1回	ソニーセミコンダクタマニュファクチャリング冠講座	第9回	協和機電工業冠講座
第2回	QTnet冠講座	第10回	イサハヤ電子冠講座
第3回	ニチコン冠講座	第11回	愛三工業冠講座
第4回	東部重工業冠講座	第12回	日立製作所冠講座
第5回	商船三井冠講座	第13回	ローム冠講座
第6回	デンソーテン冠講座	第14回	ブラザー工業冠講座
第7回	TMEIC冠講座	第15回	ヌヴォトンテクノロジージャパン冠講座

## 8月24日オープンキャンパス開催!

### ◆総合選抜試験にもつながる! 模擬講義を開催

教員による模擬講義では、参加者に対してテーマが提示され、自らの考えをどのように組み立て、他者に伝えるかを学ぶ貴重な機会に。今回のテーマは実際の選抜試験において発表内容として使用できます。事前対策としてもおすすめのイベント。

### ◆探究活動の個別相談コーナー

高校で取り組んでいる探究活動に関して、本学教員がマンツーマンでアドバイスを行う相談コーナーも開設。探究内容の深掘りや発表方法の工夫など、専門的な視点からの指導が受けられます。

### ◆2027年度開設予定「先端工学部(仮称・設置構想中)」を初紹介!

2027年度新設予定の「先端工学部(仮称・設置構想中)」について紹介するコーナーが、初めて高校2年生向けに登場。新学部の特色や教育方針、目指す人材像などを紹介する予定で、新たな選択肢を模索する高校生にとっても注目のコーナーです。



開催場所:長崎総合科学大学 時間:10:00~15:00  
※駐車場はシーサイドキャンパスをご利用ください

事前の予約が必要となります



【問合せ先】入学支援センター 095・838・5106